

新型コロナウイルスのPCR検査で、鹿児島大学大学院理工学研究所の隅田泰生教授(63)が糖鎖生物化学のチームが開発した検査キットが10日、保険適用された。唾液を検体に用い、検査時間を大幅に短縮できるのが特徴。急患受け入れ時などの迅速診断に役立つ。



隅田泰生教授

唾液で検査 迅速診断へ

鹿大PCR 保険適用

同日までに、従来のPCR検査に加え19件が保険適用となった。同教授らが開発した検査キットは、ごく微細なものを扱う技術「糖鎖ナノ粒子法」を用いてウイルスを抽出する。従来法で約1時間かかる抽出工程を約3分でできる。抽出した遺伝子を増幅する工程も、隅田教授らが開発した装置を使うと20分以内でできるとい

う。従来法の検査に要する時間は計約6時間だった。同教授らが開発した検査キットは、ごく微細なものを扱う技術「糖鎖ナノ粒子法」を用いてウイルスを抽出する。従来法で約1時間かかる抽出工程を約3分でできる。抽出した遺伝子を増幅する工程も、隅田教授らが開発した装置を使うと20分以内でできるとい

う。従来法の検査に要する時間は計約6時間だった。同教授らが開発した検査キットは、ごく微細なものを扱う技術「糖鎖ナノ粒子法」を用いてウイルスを抽出する。従来法で約1時間かかる抽出工程を約3分でできる。抽出した遺伝子を増幅する工程も、隅田教授らが開発した装置を使うと20分以内でできるとい

う。従来法の検査に要する時間は計約6時間だった。

(園田尚志)